

学校法人 滋慶学園 福岡スクールオブミュージック＆ダンス専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【 2025年 5月 30日実施 】

2025年度自己点検自己評価(2025年4月1日～2026年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1	
1 教育 理 念 ・ 目 的 ・ 育 成 人 材 像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4	【1-1-1】 滋慶学園グループ、福岡スクールオブミュージック＆ダンス専門学校としての理念・目的・育成人材像はしっかりと定められている。	「学校法人 滋慶学園グループ」 1976年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(業界からの信頼、高校の先生からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実践することで、理想の教育実現を目指す。医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス・ホテル・ブライダル等、多岐にわたる分野で北海道から福岡まで約80校を有する。 3つの建学の理念 ●実学教育 「社会で即戦力となりうる人材には、技能を身につけさせること」を前提に、各業界において現在もっとも求められている知識・技能の教育を行う。現場で実践的に学びプロの経験を積む「産学連携 企業プロジェクト」を主とした教育を実施。 上記を踏まえ、FSMでは職業により修業年限を分け専攻を設置。特に、テクノロジー・コミュニケーションツールとしての英語力・マネジメント(リーダーシップ)を主軸に学ぶ4年制専攻では、音楽業界を構成する「人」に着目しアーティスト(クリエイター)とそれを支えるスタッフの両視点での人材を育成する。 ●人間教育 スペシャリストとして将来を嘱望される人材を育成するために、人間資質の向上を図る独自の教育システムにより、心豊かな人格の形成に力を注ぐ。開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ち「ホスピタリティ」やコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。 ●国際教育 グローバル化している現代社会において、広く国際的に通用する人材の養成をめざす。コミュニケーションツールとしての英語力を身につけるだけでなく、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。	4	・グローバル化に対して対応している。広い視野で教育を実行している。 ・専門的な授業が充実していてとても良いと思う。あいさつも学生皆さんがいつも気持ちよくされていて良い。 ・実学教育・人間教育・国際教育の理念に基づき、産学連携による実践的な教育を通じて、社会に貢献できる職業人の育成に取り組んでいる。 ・変わらない部分だけでなくきちんと時代の流れを意識し社会に適合していて、素晴らしいです。
	1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱えているか					
2 学 校 運 営	2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	【2-2-1】すべての運営方針は滋慶学園グループの理念に沿って定めている。 【2-3-1】理念等を達成するために5年後を見据えた毎年の事業計画を定め、この計画に沿って教育・就職・広報・人事・収支などの運営を行っている。 【2-4-1】本校の運営方針や収支予算・決算などは滋慶学園の理事会において承認を受け適切に運営を行っている。 【2-4-2】事業計画の中で学校運営組織の人員構成・組織図・職務分掌を作り、役職における職責内容や職務権限を明確にしている。また滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って採用を行い、定期的にJESC(滋慶教育科学研究所)によるFD研修やグループ・学校主催の様々な人材育成のための研修を行っている。 【2-5-1】人事・給与に関しては法人総務部と滋慶サービスで制度を確立しており、人事データバンクシステムや勤怠管理システムなどを活用しながら働き方改革にも取り組んでいる。 【2-6-1】意思決定システムはプロセスに応じた会議・決裁者・最終決裁者を設定している。様々な目的により会議や委員会などを定期的に実施し滋慶学園グループの方針の確認・共有や企画立案、状況報告、連絡相談の場を設けている。 【2-7-1】情報のシステム化については、広報では資料請求から入学までを管理する広報システム、教務では出欠管理システム・就職システムを通して学生の出欠管理やサポートアンケート状況の確認、カウンセリングの内容などの把握をし、総務・経理では勤怠管理システムや予算管理システムなどを導入し業務の効率化に努めている。	滋慶学園グループではグループ全体で教育の質的向上を目指すため、独自の研究機関としてJESC(滋慶教育科学研究所)を設置。JESCでは教育力・運営力向上を目的とし、教職員・講師を対象に研修を実施している。「教育の質は、実践する教職員の成長により向上する。」という考えのもと、新入職者からマネジメント層に至るまで、それぞれの職務に必要なマインドの養成とスキルアップを目指している。 〈JESC主催の主な研修内容例〉 ・新入職研修(広報研修・FD(ファカルティ・デベロップメント)マイクロレベル研修) ・FDマイクロレベルフォローアップ研修・FDミドルレベル研修 ・FDマクロレベル研修・FDセッションコーチ研修 ・進路変更アドバイザー研修・キャリアサポートアンケート勉強会 ・マネジメント研修・広報力大会・滋慶教育科学学会 ・キャリア教育アドバンス研修 ・ホスピタリティ研修 ・教育DX・広報DX研修 など 〈その他研修例〉 ・人権同和問題企業主研修会・留学生担当職員研修会・認定CPOアカデミック資格講座・LGBT研修・講師研修会 等 【情報システム】 ◎広報業務システム・・・資料請求～出願までの情報を管理できる ◎出欠管理システム・・・在校生の出欠、成績、カウンセリング内容を管理できる ◎就職システム・・・全国の求人を閲覧できるシステム ◎予算管理システム・・・年度内の予算で運営できるように予算確認から執行までを確認できるシステム ◎勤怠管理システム・・・教職員が健康でいられるように シフト管理を徹底し、公休日・有給休暇の消化、残業の調整などを行う ◎人事データバンク・・・人事に関する申請を簡略化するためのシステム	4	・システムの改善を継続的に行之い、運営管理および教育力の向上に取り組んでいる。 ・研修をしっかりとされていて安心して子供を通わせられる。 ・グループの理念に基づき計画的な学校運営を行うとともに、組織体制の整備や教職員の資質向上を通じて、業務効率化と教育の質向上を推進している。 ・学校運営全般について、適切に行われているものと存じます
	3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか					
	4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか					
	4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか					
	6-1 意思決定システムを整備しているか					
	7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか					

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1			適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	
3 教育活動	8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	【3-8-1/3-8-2】 3つの建学の理念を踏まえ、4つの信頼を得ることで即戦力となる人材を育成し社会に貢献するというミッションのもと、ディプロマポリシー(卒業認定等の方針)・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを設定し学年毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしている。 【3-9-1/3-9-2】 教育課程編成において、業界とともに独自の「産学連携教育システム」を構築しており、求められる即戦力となる人材を育成することを目標とし取り組んでいる。また年2回実施される教育課程編成委員会でいただいた意見を反映している。 【3-9-3】 入学前から卒業までをキャリア形成⇒キャリア設計⇒キャリア開発と3つのフローに分けキャリア教育を実施している。本校で行っている教育は、すべては社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。 【3-9-4】 年2回、専門課程及び高等課程の学生・生徒に授業アンケートを実施し、授業評価を行いながら学生の授業に対する満足度の把握・向上に努めている。さらに学科別に講師会を実施しアンケート結果を基に講師と担任が連携を取り、授業の改善、学生フォローを行っている。 【3-10-1】 成績評価や進級・卒業認定基準は学則、試験規程等で明確に決められており、それを 学生便覧及び教育指導要領に記載して、学生、教職員、講師に周知徹底している。GPA制度(Grade Point Average)も導入している。そして、進級判定会議や卒業判定会議を通して、適切に運営されている。 【3-10-2】卒業・進級制作展(We are FSM)において学生の研究課題や企業プロジェクトの発表、作品及びパフォーマンスにおいて習得した技術を業界の方や保護者の方々へ披露し評価いただいている。 【3-11-1】 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置づけられており、それを 学校パンフレット、学生便覧、教育指導要領等に明記し、学生・教職員・講師 に周知している。 【3-11-2】 資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、支援を行っている。 【3-12-2/3-12-3】 教職員の資質向上の取り組みとして、JESC(滋慶教育科学研究所)主催のFD(ファカルティディベロップメント)研修やカウンセリング研修を行っている。学校長・副校長の監督のもと、教務部長を中心に学科長、主任及び各専攻一人以上の責任者を配置している。	滋慶学園COMグループ音楽系全校から構成する「パフォーミングアーツ教育分科会」を設置。 理念・ビジョン・考え方・カリキュラム・教育システムの共有等、それぞれの教育活動の項目に係るレベルの向上を図り、その方針に沿ってFSMでも各項目の取り組みを実施している。 2025年度の主な取り組みは下記となる。 ① テクノロジー教育の強化 ・VTuber専攻のカリキュラム構築 ・AI作曲カリキュラム構築 ・映像専攻で画像生成AI/映像生成AIの特別講義の実施 2026 we are JIKEI COM 若きクリエイター展にて、AIを切り口にした企業課題の成果展示のプレゼンテーションを行った。 ②英語教育／海外プログラムの強化 ・NY姉妹校のCollectiveと連携し、日本で学べないNYならではの音楽教育をコンセプトに、全てのCOM音楽系学生を対象にオンラインプログラムを実施 ・英語を道具として使いビジネスできるようになることを目的とした英語授業を、少人数英語教育「グローバルコミュニケーション」として実施。レベル分け少人数授業(4レベル／15名クラス)として開講し、レベル分けテストも前期後期内で定期的実施 ③キャリア形成のためのさらなる企業連携 FSMでは職業人教育の一環として考える力、決断する力、生き抜く力を身につけるため、産学連携教育=企業プロジェクトに数多く取り組んでいる。 (取り組み一例) ・SONY CSL企業課題「AI楽曲制作プロジェクト」を実施 ・株式会社ソニーミュージックソリューションズ企業課題「奥田民生「30」再現ライブ来場者体験・ブランド価値向上プロジェクト」を実施 2025年度も多くの企業課題を実施し、その取り組みの成果をJESC候補作品プレゼンテーションで業界審査員に向け発表を行い評価をいただいた。 ④理念／考え方の統一と共有 職員の資質向上の取り組みとして、教務勉強会・講師研修会を実施 理念・考え方の共有の場として教務勉強会を実施しているが、2026年度はさらなる個別支援・チーム支援の構築を目指し、スタッフの学びの事業計画を作成しスケジュールに沿って実施予定 また、考え方・コンセプト・ビジョンを理解し、チームで学生サポートを行うための講師研修会も事業計画を組んで実施していく。	4	・近年のAI化に対応し職業人として、社会で生き抜く力をつける努力をしている。学生の成果を発表する場所を積極的に提供している。 ・発表の場があることで、成長することもでき保護者としても毎年成長を知ることができ、とても楽しみにしている。 ・実学教育も大事だが卒業後のことも考えた、キャリア教育は重要だと考える。しっかり対応してもらいたい。 ・教育理念と3つのポリシーに基づく教育を実践し、産学連携やキャリア教育、教職員研修を通じて教育の質向上を推進している。 ・ドロップアウトが少ない事にやはり全てが現れていると思います。
	8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか					
	9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	9-3 キャリア教育を実施しているか					
	9-4 授業評価を実施しているか					
	10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか					
	10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で明確に位置づけているか					
	11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
4 教育成果	12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	【4-13-1】 就職においては開校以来、就職率(就職者÷就職希望者)100%を達成しているが、専門就職率(業界就職者数÷就職者数)・就職対象率(就職者数÷在校生数)の向上も課題として取り組んでいる。入学から卒業時まで職業人教育の実践を、就職活動から内定へ、そして次期管理職へ成長していくことが業界からも要求されている。 また就職希望者については、舞台機構調整技能検定3級、照明技術者技能認定2級、フルハーネス型墜落制止用器具特別教育、足場特別教育等就職後に必要とされる資格は特別講義等も実施し取得に努めている。 デビューにおいては希望者全員がデビュー(芸能プロダクション等と契約)に至ってはいないが、学修成果としては業界からの評価も得ており、一定の成果は出ていると思われる。在校時のサポートだけではデビューへの限界もあり卒業後のフォロー体制の充実も更なる向上が課題と言える。 【4-14-1】 舞台機構調整技能8名受験―8名取得 照明技術者技能3名受験―3名取得 フルハーネス特別教育32名受講―32名取得 足場教育53名受講―53名取得 【4-15-1】 産学連携教育の実践により授業や特別講義、企業プロジェクトを通して業界の方々や卒業生から就職の状況把握をしている。また卒業生の活躍も企業との連携に努めたり、年に一度同窓会を開き現状の活躍をヒアリングするなど、就職・デビュー担当者が主となり把握している。	就職・デビューについては、入学前教育(オリエンテーション)での指導が必要であり入学予定者には事前授業を実施している。 内容は業界で求められる技術や知識は勿論だが、勤労観や職業観といったキャリア教育についても注力している。 スーパー・エンターテイメント科・音楽プロデュース科(デビュー系)の主な卒業進路におけるデビュー決定(芸能プロダクションとの契約等)は企業招聘による学内オーディションの開催や企業実習で多くのチャンスを設けることで成果は出ている。 在学中から早期就職決定(内定獲得)を意識させるよう、企業による特別講義等で知識や技術ではない部分(社会人としての身構え、気構え、心構え)を植え付けさせることにも努め、専門就職率の向上を図っている。 ※免許・資格には、協会等が業界従事者資格として取得の傾向にはあるが、義務付け等には至ってはいない。しかし就職応募の際の他学歴者との差別化においても専門学校生としての独自性が出せる為、取得については奨励している。	4	・現場に必要な資格などを取得させている。卒業生からの生の声を聞ける機会を作り、学生が自分の未来像を作れるような環境を作っている ・教職員の就職支援や学生ケアが行き届いている。企業との連携体制が整っているため今後は学生をどう導くかが鍵となる。学科を超えたプロジェクト展開に期待する。 ・業界で卒業生と共に業務を行う機会があるが、技術力および対応力の高さが評価されている。 ・資格も積極的にとられていて良いと思う。就職に関しても、卒業後のフォローもあり安心する。 ・資格・免許取得状況は素晴らしいと思う。続けてもらいたい。 ・就職率100%を維持しながら、産業界と連携した実践的な教育を通じて専門就職率の向上と職業的自立の支援に取り組んでいる。 私自身、活躍する卒業生と外の現場で沢山会うことがあります。
	12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか					
	12-3 教員の組織体制を整備しているか					

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1			適切に対応…4 ほぼ適切に対応…3 やや不適切…2 不適切…1	
5 学 生 支 援	16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	【5-16-1】 学生が目標を達成するための支援には、学業の面と生活環境面を整備していくことで支援に繋がると考える。本校でも多くの支援体制を築き上げているが、支援はあくまでも支援であり、学生本人が自覚を持たない場合、支援は効果がない。それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。しかし、自立的行動を中々取ることが出来ない学生に対しては、担任をはじめとする教職員から積極的な支援に努めている。 ● 就職、デビュー 就職についてはキャリアセンター、デビューについてはデビューセンターを企業からの求人・オーディション情報の窓口として設置している。また担任および講師との強い連携をとりながら、就職、デビューの相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。 【5-17-1】 学生の相談について、基本的には担任が行うが、担任にも相談できないと考える悩みはJTSC(滋慶トータルサポートセンター)というサポート企業と連携し、その解決にあっている。このことで退学率の低減にも努めている。 【5-18-1】 学生相談窓口である滋慶トータルサポートセンターを学校から徒歩7分の場所に設置し、専属のカウンセラーが秘密厳守で学生の悩みや相談の対応をする体制を整えている。 【5-18-2】 滋慶国際交流COM(JCIC)を中心に留学生の修学状況の把握やビザなどの手続きから自国の家族へのフォローまで様々な生活面のサポートを行っている。学内に留学生対応の担当スタッフも配置。 【5-19-1】 学生支援機構の奨学金の他、滋慶学園グループ独自の滋慶奨学金、学費分納や延納などの体制を整備している。学費担当者を学内に配置し、担任との連携を図り学費で修学をあきらめることのないようにサポートした結果、学費が原因での退学者が減少。 【5-19-2】 慶生会クリニックと連携し、健康診断を行っている。歯科・内科の受診などを奨励し、学生の健康管理サポートは整備されている。健康診断においての課題は2年次以降の受診率と再検査の受診率の向上を図ることである。 【5-19-3】 関連企業のジケイスペース(株)が専用寮(スチューデントハイム、アソシエイト)5棟を運営。家具家電を完備、セキュリティ強化も図り安心・安全な学生生活をサポートしている。 【5-19-4】 放課後の自主練のためのスタジオの貸し出しを実施。また、体育系クラブ活動も用意している。 【5-20-1】 新入生および卒業年次生の保護者を対象に保護者会を開催している。また、オンラインでの保護者会も同時開催し、学校生活の状況や就職活動の支援方法について伝え、家庭との連携を深めている。高等課程は保護者に向けた就職ガイダンスを個別で行っている。 【5-21-1】 卒業後の再就職支援は常時行っている。またオンライン同窓会では、遠方で参加できなかった卒業生も参加することができ、様々な意見交換や現在の就業状況などを把握することができた。 【5-21-2】 同窓会やOB・OGセミナーを実施し、業界の現状を把握することに努め、業界ごとのニーズにあった再教育プログラムを提供。今後は他分野の卒業生に向けてのセミナーもオンラインも含め実施を検討していく。 【5-21-3】業界からのニーズに合わせリカレント教育制度の導入について検討したいが、まだできていないのが現状。	① 就職・デビュー 各校で実施する企業を学内へ招聘する「合同企業説明会」を開催し、デビュー系はデビューガイダンスを実施。また滋慶学園のスケールメリットを活かした「全国オンライン企業説明会・オンラインオーディション」の実施と東京校を会場とした「大規模合同企業説明会・新人発掘プレゼンテーション」の開催で就職・デビューに関しても更なる強化を図っている。その他、業界研修指導やオーディション対策まで学生の為のあらゆる支援として、キャリアセンターおよびデビューセンターが独自の活動を行っている。また全国の音楽系姉妹校との連携により就職、デビューの幅を広げさらに強化している。 4月末現在就職内定率95.8%。5月末希望者全員の就職決定を目指し支援継続中。 デビュー希望者114名中24名(21.1%)の契約が決定。 デビューに関しては昨今の業界の動向を踏まえデビュー定義(音楽配信、動画配信デビュー等)を含め学園内で検討中である。 ② 退学率低減に向けて 2012年度から滋慶学園福岡8校で統一で運営し、滋慶トータルサポートセンター福岡として運営を行っている。ここは専用の場所を学校とは別の場所に設け、相談しやすい環境を整えている。また自習スペースもここに設けて、学校に登校出来ないような学生がここで学習することが出来る環境を整えている。必要であれば合理的配慮も徹底し行っている。 2025年度は、退学率低減を重点目標に掲げそのためのビジョン・考え方・手法の共有や、事業計画に基づいた講師会の開催を通して、一人ひとりを大切に一人ひとりの良いところを見つけ褒めて伸ばすということを学生サポートの基本的な考え方として個別支援を実施しチーム支援環境を構築。 その結果、2025年度は在籍者数530名に対し退学者数15名退学率2.8%での着地となった。 退学してしまった学生のうち、モチベーション低下で退学してしまった学生をどうフォローすべきだったかを今後の課題として捉え、さらなるサポート体制を構築していく。 ③ 経済支援 2019年5月10日に成立した「修学支援金制度(返済不要の給付型奨学金と授業料等減免)」の対象機関校として、入学生及び在学生の大きな支援となっている。 ④ 健康管理 慶生会クリニックは、学生であれば診療料は学生の健康管理費から負担される為、何度でも安心して受診することができる。 ⑥ 課外活動 姉妹校連携クラブ活動だけでなく、学生発案による同好会も発足している。 ⑦ 保護者との連携 担任制による生活面のサポートや学費・奨学金の専任担当者によるサポート、並びに電話等による報告を実施している。対面による面談が基本だが、オンライン保護者会も同時に実施し、保護者との繋がりを適時且つ頻度を増やし連携を深めている。 ⑧ 卒業生・社会人 就職後の状況確認を行い、奨学金返還のサポートや再就職のサポートを実施している。また、全国の求人を姉妹校と連携しているので、広い視野での転職サポートも可能としている。	4	・退学率の低下から、教職員および講師が連携し、学生一人ひとりに寄り添った支援を継続的に実施していることがうかがえる。また、保護者に対しても丁寧な説明や情報共有に努めている。 ・担任の先生だけではなく、いろいろな先生に声をかけて頂いている様で励みになっている。卒業後のサポートもしっかりしていて心強い。 ・学習・生活・進路に関する総合的な支援体制を整備し、学生が安心して学び成長できる環境づくりに取り組んでいる。 ・素晴らしいサポート体制だと思います。
	17-1 退学率の低減が図られているか					
	18-1 学生相談に関する体制を整備しているか					
	18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか					
	19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか					
	19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか					
	19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか					
	20-1 保護者との連携体制を構築しているか					
	21-1 卒業生への支援体制を整備しているか					
	21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか					
	21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか					

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1	
6 教育環境	22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	【6-22-1】本校は、音楽・エンターテインメント業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための知識・技能を身に付けるための授業に欠かせない実習室(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、協力企業より常に業界の動向についてアドバイス頂をきながら整備している。 【6-23-1】学内の教育環境に留まらず、学外の環境(インターンシップ、学外実習、海外実学研修)も重要であるためキャリアセンター、デビューセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、人材育成及び教育効果につなげている。 【6-24-1】防災計画を策定し、それに基づいて防火管理者を始めとして防災組織体制を構築している。また、年2回の避難誘導訓練を実施すると共に、ゲリラ豪 雨や竜巻、地震など異常気象に備えて、学生の危機意識の確立を図って安全確保に努めている。ただし、天災は日頃からの備えが重要であり、全員での認識が重要な為、全学生及び教員(非常勤講師)合同での訓練が望ましい。今後更なる充実を図っていく。 【6-24-2】ガードマンが常駐し、館内警備にあたると共に、安心安全な教育環境を学生に提供するために、福岡県警察や行政、消費生活センターなどの専門機関と連携をして、自転車安全講習、薬物乱用防止講習、悪徳商法被害防止講習、女性犯罪被害防止講習など行っている。	滋慶学園グループには、サポート企業・関連企業が多く存在し、グループ総力を挙げて教育環境 の整備にあたっている。 ＜サポート企業・関連企業の一例＞ ① ジケイ・スペース㈱・・・学生寮や学生食堂の運営 ② DUCE・・・校舎の改修・改装・メンテナンス、清掃、警備などの管理 ③㈱プレーンスタッフコンサルタンツ・・・業務システム、ネットワーク管理 ④ VISTA ARTS・・・ホームページ制作、コンピュータ教育、システム制作、卒業アルバム制作 ⑤滋慶出版・・・教本・教材開発等 ⑥ILC国際語学センター・・・英会話教育等 ＜その他＞ ①ガードマンの配置による安全確保 ②緊急時安否確認システムによる学生の安全確保の推進	4	・常に新しい環境・時代にマッチした機材を学生に提供する努力は認められる。学生の安全面での配慮も向上した。 ・個人では購入できない機材等を学校で実際に使用できて授業ができるのはとても良いと思う。防災・安全に対してもきちんと考えてあり安心する。 ・業界ニーズに対応した教育環境の整備と安全管理体制の充実を図り、学生が安心して学べる環境づくりに取り組んでいる。 ・音楽系の生徒数が増えてきているので、教室や練習スタジオを今後どのようにされるのが気になります。
	23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか					
	24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか					
	24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					
7 学生の募集と受け入れ	25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	4	【7-25-1】職業教育を実践する学校として入学前から仕事観・勤労観を持ていただくために、オープンキャンパス(体験入学)やMyスクールにてお仕事体験を実施し、ひとりひとりの目的・目標を明確にできるように自己発見のサポートを行っている。入学案内やホームページ上でもめざす職業や学びの内容を明確化できている。 【7-25-2】福岡県専修学校各種学校協会のルールに基づいた募集開始時期、募集定員・募集内容(総合型選抜AO入試等も)を遵守している。高等学校内での進路ガイダンスや職業理解セミナー、進学サイトやホームページ、オープンキャンパス、業界ツアーにてキャリア形成支援と入学前教育を適切かつ効果的に行っている。また進路選びの多様化からのYouTubeを活用したオンライン配信の実施、LINEやZoomでのOne to One進路相談なども定期的に実施をし。対面、オンラインのハイブリット型で実施している。 【7-26-1/7-26-2】入学選考に関しては、出願受付および選考日を学生募集要項(または学校ホームページ)に明示し、決められた日程に入学選考を実施している。本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り「面接選考」および「書類選考」であるが、その基準となるのは「目的意識」である。将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりしているかを確認している。 【7-27-1】授業や実習内容、その他の経費に対応した学納金になっている。 【7-27-2】入学辞退者の授業料等については、3月31日までに入学辞退の申し出 があった場合は、入学金を除き学費等を全て返還している。しかし、4月1日 以降は、最高裁の判例に基づき、海外研修積立金などの預り金以外は、返 金できない。また、このことは、学生募集要項に於いて、「学費一覧」ページと「学費納入スケジュール」ページの2か所に明記している。	広報活動では「音楽・エンターテインメント業界の仕事の素晴らしさ」を知っていただき職業観を身に付け、「学校の考え方(コンセプト)」「産学連携教育」等、本校独自の特色を理解していただくために、オープンキャンパス(体験入学)への参加を促し、充分理解していただいた上で出願してもらうことを心がけている。 【学生募集活動】 ・Web(HP)、進路媒体誌、高校・会場ガイダンスにて認知活動。 ・高等学校で実施されるキャリア教育での職業理解授業・職業体験を実施 ・職業体験フェスタ 高校生～小学生に職業ブースにて仕事を体験してもらうイベント実施 ・高校からのバス見学会受け入れ ・オープンキャンパス(体験入学)を年間通して実施 ・高等学校訪問 ・高校教諭への学校説明会 ・部活動支援(軽音部等) ・SNSによる学校生活の配信 ・SNSでの質疑応答・オンライン説明会など 【入学選考の種類】 ・総合型選抜(AO入試)/高校推薦/一般(専願・併願)/指定校推薦(指定校のみ実施) 【入学者選抜における配慮】 ・願書記載事項、面接での質問等を適正に行うための研修 【入学者】 2026年度 入学者239名 入学定員240名 定員充足率99.6% ※2024年度より高等課程設置 ※2025年度募集より入学定員240名に変更	4	・小学校・中学校へ直接赴き積極的なPRを実施、エンターテインメントについて小・中の先生方に対しても理解を得てもらう努力をしている。高校生に限らず幅広い年齢層を対象とした、大規模な体験イベントも実施し、高い評価を得ている。 ・広報活動の結果、前年度と比較して学生数の増加がみられたことはとても素晴らしい。県内の新設大学など今後さらに競合が激しくなると予測されるが、学校の特色を生かした募集活動を期待する。 ・高校軽音楽部との繋がりを強化するとより多くの来校につながるのではないかと。 ・いろいろな角度からアプローチされているので、今後も増やしていけると良いと思う。 ・多様な広報活動を通じて本校の教育内容を発信するとともに、適切な学生募集活動と受験生・保護者に配慮した運営に取り組んでいる。 ・少子化のこのご時世に入学者が増えている事は、広報面でかなりご尽力されている事と思います。素晴らしいです。
	25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか					
	26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか					
	26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか					
	27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか					

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1	
8 財 務	28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	【8-28-1】 毎年5か年の事業計画を作成し、中長期の視点で5か年の収支予算を立てており、財務基盤は安定している。	当法人の財務情報公開に関しては下記の通りとなっている。	4	・きちんと管理されている。 ・計画的な財務運営と適切な管理体制のもと、財務の健全性と透明性の確保に取り組むとともに、財務情報の公開を通じて説明責任を果たしている。 ・健全かつ効率的に管理されているかと思います。
	28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか		【8-28-2】 5か年計画及び単年度事業計画に基づいて、滋慶学園本部、法人本部、学校がそれぞれの立場から財務分析を行っている。	〈組織体制〉 1.法人統括責任者 2.学校統括責任者 3.学校事務担当者		
	29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか		【8-29-1】 5か年の予算は、中長期を見越した新学科構想、施設・設備構想、人員構 想等を考慮して支出を計画し、将来の学生数等を鑑みながら収入を予測し、収支計画を作成する。	〈公開資料〉 1.財産目録 2.貸借対照表 3.収支計算書 4.事業報告書 5.監査報告書		
	29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか		【8-29-2】 予算の執行管理は計画的に行っている。4期に分け見直しを行っており、予算と執行金額との乖離がある場合は修正予算を組む。	〈閲覧場所〉 法人本部 本校ホームページで財務・経営情報を公開		
	30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか		【8-30-1】 学園本部と法人本部の二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができています。 また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。 さらに、監査は私立学校法上義務付けられている監事監査のほか、公認 会計士による監査も受けている。			
	31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか		【8-31-1】 私立学校法に基づいて、ホームページで財務情報を公開している。現在 は、令和6年度財務情報を記載しているが、決算理事会終了後の7月中旬を目途に、令和7年度財務情報に更新予定。			
9 法 令 等 の 遵 守	32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	【9-32-1】 法令遵守については、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断し、また学校運営が適切かどうかは各組織体制でチェックできるようにしている。	＜法令順守に係る組織体制・システム＞ ◎組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ)	4	・毎年、コンプライアンスの強化に努めていると思われます。 ・きちんと管理されている。個人情報の保護もしっかりされている。 ・法令遵守と適切なリスク管理のもと、自己評価および学校関係者評価を活用し、透明性の確保と継続的な改善に取り組んでいる。 ・適正に運営が行われているかと思います。
	33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか		【9-33-1】 学校が保有する個人情報(資料請求者、在校生、卒業生、教職員、講師、実習先など)は個人情報保護法に基づいて、厳格に管理・保護されている。	◎システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(GOMグループ)		
	34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか		【9-34-1】 自己評価は毎年中間評価と年度末の自己評価を実施する体制を整備し、評価を行っている。	学内にコンプライアンス委員会を設置し、厳格なコンプライアンスの遵守に努 めている。委員長は、統括責任者である法人の常務理事が就任し、委員は 学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関 する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止対 策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のための啓発活動の推進であ る。監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。		
	34-2 自己評価結果を公表しているか		【9-34-2】 自己評価結果は毎年ホームページにて公表している。			
	34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか		【9-34-3】 年に1回学校関係者評価委員会を開催し、評価・ご意見をいただいている。			
	34-4 学校関係者評価結果を公表しているか		【9-34-4】 学校関係者評価結果は毎年ホームページにて公表している。 (本校HP情報公開 学校関係者評価委員会)			
	35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか		【9-35-1】 教育に関する情報公開はホームページやパンフレット、SNSや学校新聞などに随時掲載している。			

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1	
10 社会 貢 献	36-1 学校の教育資源を活用した社会貢 献・地域貢献を行っているか	4	【10-36-1】 開校以来継続している「骨髄移植推進キャンペーンミュージカル 明日への扉」の公演、2月には地域の小学生・中学生・高校生を対象に職業を体験してもら う「職業体験フェスタ2025」をマリンメッセ福岡B館にて実施。社会貢献・地域貢 献は積極的に行っている。 【10-36-2】 留学生の受け入れは積極的に行っており、職業体験フェスタ2025では日本語 学校からの団体動員も行った。今後はさらに国際交流を行っていきたい。 【10-37-1】 次年度は地域清掃やイベントの実施など積極的に取り組んで行く	【2025年度 社会・地域貢献】 ●骨髄移植推進キャンペーンミュージカル 明日への扉「ホスピタル・オブ・ミラクル」 ●博多区「どんたく」博多区役所ステージにてイベント制作・運営・出演 ●「職業体験フェスタ2026」職業ブース出展 ●「ふくおか県芸術文化祭」オープニングフェス運営制作	4	・グループ全体の全館禁煙は評価大。毎年行われるミュージカル は社会貢献しつつ、学生の学びの向上と達成感・技術の飛躍に 効果がある。 ・実際にミュージカル公演を観覧したが、学生一人ひとりが高い 意識を持って取り組んでおり、その成果が十分に発揮された内 容であった。 ・学生が係ることで実際に病に苦しむ人の声、又社会貢献の意 味も学べてとてもいいと思う。 ・様々な場所での活動が行われており、素晴らしいことだと思う。 ・地域連携活動や国際交流を推進し、社会貢献および多文化理 解の促進に取り組んでいる。 ・学生のうちに自分の好きな事や得意な事で社会・地域貢献を体 験させる事は、プロとしての意識を育てる上でとても大きな経験 になると思います。
	36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具 体的な活動支援を行っているか					